

為替週間展望 = ドル円は緩やかに上値を追う展開か

[6月12日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月5日～6月9日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	139.92	140.45(5)	138.76(9)	139.39	-0.53
ユーロ・ドル	1.0710	1.0787(8)	1.0667(6)	1.0779	+0.0071

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	32,265.17	+740.95	日本10年債利回り	0.438	+0.024
ダウ平均株価	33,833.61	+70.85	米10年債利回り	3.718	+0.027

<来週の主要経済統計等>

- 12日 米5月財政収支
- 13日 英5月雇用統計
 - 独5月消費者物価指数、独6月ZEW景況感指数
 - 米5月消費者物価指数
- 14日 NZ第1四半期経常収支
 - 英4月鉱工業生産指数、英4月貿易収支
 - ユーロ圏4月鉱工業生産指数
 - 米5月生産者物価指数
 - 米連邦公開市場委員会 (FOMC、13～14日) 政策金利
 - パウエルFRB議長記者会見
- 15日 NZ第1四半期GDP
 - 日本5月貿易収支、日本4月機械受注
 - 豪5月雇用統計
 - 中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高
 - スイス5月生産者輸入価格
 - ユーロ圏4月貿易収支
 - 欧州中央銀行 (ECB) 政策金利
 - ラガルド総裁ECB記者会見
 - カナダ4月製造業出荷
 - 米5月小売売上高、米5月輸入価格指数、米新規失業保険申請件数
 - 米6月NY連銀製造業景気指数、米6月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米5月鉱工業生産・設備稼働率
 - 米4月対米証券投資
- 16日 日銀金融政策決定会合 (15～16日) 金融政策発表
 - 植田日銀総裁記者会見
 - ユーロ圏5月消費者物価指数
 - カナダ4月卸売上高
 - 米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ドル円は底堅い動きを見せそうだが、140円超の水準では政府・日銀によるドル売り円買い介入も警戒されることで、ドル円は一進一退の動きが見込まれるとした。

【6月のFOMCでは利上げ見送りか】

2日発表の5月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比+33.9万人と市場予想の+19.0万人を上回った。雇用者数が予想を上回る伸びを見せたことで、ドル買いの動きに傾き、ドル円は140円台に乗せた。

週明けの5日には、5月の米ISM非製造業景況指数が50.3となり、市場予想の52.5を下回ると、ドル売りの動きが広がり、ドル円は139.25近辺まで下落した。6日には手掛かり材料に乏しく、139円台でのみ合いとなった。

7日にはカナダ中銀が政策金利を0.25%引き上げて4.75%とした。3会合ぶりの利上げとなる。3月と4月はそれまでの利上げの効果を確認するために政策金利は据え置きとしていた。今回はインフレ警戒から再び利上げに動いた。

カナダ中銀の利上げにより、米国での金融引き締めが長期化するとの思惑が広がり、ドル円は139円台前半から140円台前半まで上昇した、もともと8日の東京市場やロンドン市場では、140円台前半までの上昇への調整の動きとなって、ドル円は下落している。

5日の週は目立った経済指標なども少なく、次週の13日の米消費者物価指数、14日の米生産者物価指数や米連邦公開市場委員会（FOMC）、15日の米小売売上高などを控えて、ドル円は139～140円台で方向感を探る動きとなった。

CME FEDウォッチでは、6月のFOMCでの政策金利の据え置き確率が75%前後、0.25%の利上げ確率は25%前後となっている。6月に利上げを見送り、7月に利上げする確率は52%前後となっている。6月のFOMCでは利上げを見送るものの、7月に再度利上げに動くとの見方がやや優勢のようだ。

FOMCでは利上げは見送りとなる可能性が高いものの、声明文やパウエル議長の記者会見に注目が集まる。今回はFOMCメンバーによる政策金利の予想（ドットチャート）やGDPやインフレ率の予想も発表される。13日の消費者物価指数の高止まり、政策金利予想や利上げの最終到達点（ターミナルレート）が上方修正されるようなら、ドル買いの動きに傾きそうだ。

13日の米消費者物価指数が大きく下振れしない限りは、インフレ警戒感はまだ残り、利上げ継続姿勢が示される可能性が高く、ドルの堅調な動きにつながりそうだ。また、日銀金融政策決定会合では金融緩和姿勢の維持が見込まれており、円売りにつながる展開となりそうだ。こうした中、ドル円は緩やかに上値を迫る展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、137.50～142.00円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、12日に米5月財政収支、13日に米5月消費者物価指数、14日に米5月生産者物価指数、米連邦公開市場委員会（FOMC、13～14日）政策金利、パウエルFRB議長記者会見、15日に日本5月貿易収支、日本4月機械受注、米5月小売売上高、米5月輸入価格指数、米新規失業保険申請件数、米6月NY連銀製造業景況指数、米6月フィラデルフィア連銀景況指数、米5月鉱工業生産・設備稼働率、米4月対米証券投資、16日に日銀金融政策決定会合（15～16日）金融政策発表、植田日銀総裁記者会見、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは上昇基調で推移か】

5日以降は安値圏でのみ合い後に上昇に転じている。5日には欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁が「インフレ圧力は依然として強い」と発言。独連銀のナーゲル総裁が「インフレ圧力はあまりに強すぎる」「さらに数回の利上げが必要となる」などと発言して、ユーロドルは1.07台前半まで上昇したものの、上昇は続かなかった。ユーロドルは6日も7日も狭いレンジでのみ合いとなった。

8日には米失業保険申請件数が弱い結果となったことで、ドル売りの動きとなり、ユーロドルは1.07台後半まで上昇を見せた。21日移動平均線を回復してくるなど、堅調な流れを見せている。

15日のECB理事会では、インフレ抑制のために0.25%の利上げに動くとの見方が見込まれる。理事会後の記者会見ではラガルド総裁は高いインフレ率への警戒を示すとみられる。ユーロドルは5月の下旬以降、6月のはじめまで下げが続いてきたことで、売り一巡感から上昇基調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジ

は、1.0650～1.0950ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、13日に英5月雇用統計、独5月消費者物価指数、独6月ZEW景況感指数、14日にNZ第1四半期経常収支、英4月鉱工業生産指数、英4月貿易収支、ユーロ圏4月鉱工業生産指数、15日にNZ第1四半期GDP、豪5月雇用統計、中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高、スイス5月生産者輸入価格、ユーロ圏4月貿易収支、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルド総裁ECB記者会見、16日にユーロ圏5月消費者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。